

【平成23年 4月 地域警察官特別派遣部隊 男性警察官(21歳)】

「警察官の姿に」



「本当にひどいですね...」

私はこの大震災で被災した市街地を間近で見
て、思わずつぶやいてしまいました。

事前にテレビ等で報道されているように被害
状況をわかっていたつもりでしたが、いざ目の
当たりにすると何と言えはいいものか...ただ、
茫然と立ちすくんでしまいそうでした。

今回の災害派遣において、私たち地域警察官
特別派遣部隊の任務は、岩手県大船渡警察署が管轄する陸前高田市の警戒活動でした。こ
れは「被災地に窃盗団が盗みに入っている」等といった風評に不安を感じている住民に安
心感を与えるため、また、倒壊家屋等からの火事場泥棒を含めた各種犯罪の防止を目的と
したものです。勤務はパトカーでの警らを中心に、避難所の巡回等を実施しました。

最初の頃は、とにかく壊滅した市街地の様子にただ驚くばかりでした。道路脇に不自然
に置かれたタンス等の家財道具、どこからか流されてきたであろうバックやランドセル、
フォトアルバム類が並べられていました。また、住民の避難誘導等に尽力したであろう消
防隊員のヘルメットや警察官の警備靴等は泥まみれになっており、被災地の凄惨さと現状
を物語っていました。

そして、警ら中にも幾度となく余震が発生し、担当地区が沿岸部に位置していたことか
ら、岩手県警本部からの無線で高台への待避指令がたびたび出ることもありました。海岸
線沿いを警らしている最中に警報を聞いた時には「もう駄目かもしれない」と思わずには
いられませんでした。

また、警ら中に地理教示を取扱うことが多かったのですが、震災によって地形（道路状
況）が変化しており、県外から来た人だけではなく地元住民も地理教示を求めてくる状況
でした。事前に現場付近の地図を渡されてはいましたが、地図どおりには通行できない場
所もあり四苦八苦しました。ある時は、県外から車を何十時間も運転してきて身内の安否
を気遣うあまり、地理教示をしている最中に泣き出してしまう人もいました。

他県警の方が取扱った事案では、走行中のパトカーの前に急に飛び出し「自分を轢いて
欲しい」と将来を悲観するあまり精神的に不安になり、無謀な行動を起こした人もいたよ
うです。

しかし、避難所の巡回ではどの方も被災したことによる不安や、慣れない集団生活のため
疲れを感じている様子はありませんでしたが、立ち寄った際には必ず「お疲れ様です」「あり
がとうございます」「また立ち寄ってください」といった温かい言葉を掛けてくださるの
です。警察官の姿がいかに被災地の方々に安心感を与えているのか、また、警察官が住民
にどれだけ頼りにされているのかということを感じることが出来ました。避難所以外
でも、警ら中に道端ですれ違う方々からねぎらいの言葉をかけられましたが、至極自然な
ものでした。

私は今回の特別派遣を通じて、現地が想像以上に凄惨であったということ以外に、警察官が地域住民にいかに関わりをされているのかということ、警察官の姿が地域住民にどれほどの安心感を与え、その影響がいかに関わりが大きいのかということを知ることができました。とても貴重な経験をすることができたと思います。

この経験を生かして、私の現在の勤務を今一度振り返り、地域警察官として本当に受持区の住民に安心感を与えているのか、関わりをされる警察官になっているのかということをよく考え、地域住民から信頼される警察官になるために日々努力をしていきたいと思っています。そして被災地の一日も早い復興を願っています。

